





世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 10 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

| 良い例 | 悪い例 |
|---|---|
|  |    |

〔 I 〕 次の文章を読み、下記の問に答えなさい。

国、邦、あるいは国家連合などの地域的なまとまりは、歴史の中で絶えず変動していくものである。

こんにち、ヨーロッパ連合(EU)は拡大の一途をたどり、いまや「EU という名の列車」に乗り遅れないようにするため、周辺諸国の関心は非常に高いといえる。

かつての冷戦下において東側諸国に属していたチェコも、2004年にスロヴァキアとともにEUに加盟した。しかし、これら両国は、比較的最近まで一つの国家(チェコスロヴァキア)を形成していた。チェコスロヴァキアは、かつてオーストリア=ハンガリー帝国に属していたが、1918年にオーストリアから独立を宣言し、関係国とオーストリアとの講和条約である [①] 条約で正式に承認された。その後、1993年に民族対立などを理由に、チェコスロヴァキアはチェコとスロヴァキアに分裂した。

1000年ほど前のこの地域に目を転じてみよう。現在のチェコの中心にあたる地域は、10世紀ごろは [②] と呼ばれていた。そして、11世紀以降は、神聖ローマ帝国に組み入れられていた。この地が輩出した著名な神聖ローマ帝国皇帝として、カール4世がいる。カール4世は、東欧で最古の大学であるプラハ大学^⑦を設立するなど文化的貢献も多くなした。また、1356年に [③] を発布し、7名の選帝侯に皇帝の選出権を認めた。

各国の王権が勢いを増すと、十字軍の失敗などの要素も重なって教皇の権威も低下することとなった。その後、ローマとフランスに教皇が両立する [④] が生じたころには、教会の不正・墮落を批判する動きが各地で起こった。その指導的役割を果たした者の一人として、プラハ大学で神学を教え、総長も務めたフス^⑧がいた。フスは教皇から破門されたのちも教会批判を続けたため、神聖ローマ皇帝ジギスムントは、 [⑤] において公(宗教)会議を開催し、フスは異端者として火刑に処された。他方、この会議ではローマ教皇が正当とされ、これにより [④] は終結した。

16世紀から続いていた経済成長がとまり、ヨーロッパでは経済活動が停滞^⑨

し、食糧不足による暴動や、疫病などの流行に見舞われた。フランスではフロン^①ドの乱、イギリスでは2つの革命が起き、ヨーロッパ大陸では三十年戦争も勃発した。現在のチェコに位置する地域は、三十年戦争とも深い関係がある。三十年戦争の発端は、教皇が、当時オーストリアの属領であった ② の国王としてカトリック教徒を任命し、カトリック信仰の強制を試みたことに対して、プロテスタント民衆が蜂起したことによる。この戦争は当初、カトリック対プロテスタントという宗教的対立から起きたが、その後、北ヨーロッパの覇権争いという側面も有する広域的な戦争となった。バルト地域では、③ 出身の傭兵隊長^④が、皇帝に雇われて戦功をあげ、プロテスタントを支持するデンマーク軍を退けた。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 文中の下線部㉑～㉔に関して、下記の間(㉑)～(㉔)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(㉑) 下線部㉑に関して、この大学で学び、『変身』、『城』、『審判』などの著作を残したブラハ生まれの作家は誰か。

(㉒) 下線部㉒に関して、フスは、聖書こそ信仰の最高の権威であるとして当時の教皇や教会制度を批判したオクスフォード大学教授に賛同して、教会批判を展開した。この教授は誰か。

(㉓) 下線部㉓に関して、この時期の全ヨーロッパ的規模での困難な状況は、16世紀の繁栄と対比し、どのように言い表されているか。

(㉔) 下線部㉔に関して、フロンドの乱で、王に抵抗する拠点となったフランスの最高司法機関を何と呼ぶか。

(㉕) 下線部㉕に関して、三十年戦争で皇帝側につき、プロテスタントを支持する軍を相手に活躍した傭兵隊長は誰か。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問に答えなさい。

19世紀におけるアメリカ合衆国は、「西部開拓」という領土拡大によって巨大な国家となり、後の経済的発展の基礎を築いた。それとともに、国内的には南部と北部の対立が激化した。こうした対立の原因には、南北で全く相違した経済的・政治的事情があった。

南部は、黒人奴隷を使用し、広い農地を経営する ① による綿花とタバコの栽培を主産業とし、政治的にはイギリスとの相互関係を重視して自由貿易を主張した。また連邦政府の権限を縮小せよとの ② 主義の立場をとり、奴隷制は当然のことと考えていた。

北部は、商工業中心で、政治的にはイギリスとの対立が原因で保護貿易を主張し、連邦政府の権限を拡大すべきとの立場をとり、また自由な労働力を確保するため奴隷制の拡大には反対論者が多かった。

この対立は、以後、西部で新しく生まれる州の争奪戦の様相を呈する形となり、1820年の ③ 協定において、③ 州は奴隷州(奴隷制を許可した州)とするが、以後、北緯36度30分以北には、自由州(奴隷制を禁止した州)しか認められないとの決定が行われた。しかし、その後1854年、カンザス・ネブラスカ法制定により、この協定は破棄されることになり、南北の対立は決定的なものとなった。このことを契機として、奴隷制廃止を主張する ④ が、結党された。

以上の事情から、黒人の北部への逃亡を助ける活動が活発化する中、1857年、連邦最高裁は奴隷が自由州に逃げても完全には解放されないとの判決^①を出し、南部が勝利したかにみえた。一方、急進的解放論者であったジョン＝ブラウンが武装蜂起したのも1859年であり、彼の反乱は失敗に終わり、処刑されている。

このように、1860年の大統領選挙の最大の争点は、黒人奴隷制度の問題とならざるを得なかった。そして、北部出身で、奴隷解放論者であったリンカンが大統領に就任し、連邦の統一を優先させようとしたが、南部はこれを拒否して、合衆国から脱退したことから、南北戦争が勃発した。

^②

リンカンは、1862年に西部の支持を得るための政策を実施し、さらに1863年に奴隷解放宣言を出し、政治的に南部に対し攻勢を強めた。もともと人口・工場の数・資金等で優位を占めていた北部は、同年の ⑤ の戦いに勝利して以降、軍事的にも優勢となり、1865年、南部の首都リッチモンドは陥落し、アメリカ合衆国は再統一されることとなった。

ところで日本では、おおよそ幕末、明治政府誕生の前夜の時期であり、日本開国に関してかなりの圧力をかけ(黒船来航など)、不平等条約を締結させたアメリカ合衆国が、日本に対してさらなる影響を与えられなかった原因の1つとして、^④ 以上のような国内の問題、つまり南北の対立という事情があげられる。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 文中の下線部㉑～㉔に関して、下記の(ア)～(オ)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(ア) 下線部㉑に関して、このころ奴隷制に反対していた作家で、『アンクル＝トムの小屋』を著したのは誰か。

(イ) 下線部㉒に関して、南北戦争終結後、この判決を否定して奴隷制を禁止することを目的とした憲法修正が行われたが、差別は現代まで解決されなかった。1968年に暗殺された、黒人差別撤廃を目指した公民権運動の指導者は誰か。

(ウ) 下線部㉓に関して、南部は北部に対抗してアメリカ連合州という国を建てたが、その大統領に就任したのは誰か。

(エ) 下線部㉔に関して、西部で160エーカーの公有地を貸与され、5年間そこで定住し、開墾した者には、その土地を無償で与えることを認める法律が制定された。この法律は、一般に何と呼ばれているか。

(オ) 下線部㉕に関して、1858年に締結された、アメリカの領事裁判権の容認や自主関税を不可とすることなどを内容とする条約の名称とは何か。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の問に答えなさい。

907年に唐が滅亡したあと、960年に北宋が成立するまで、中国では各地に政権が乱立する分裂時代が続いた。この間、華北のいわゆる「中原」の地では、5つの王朝が移り変わった。また華中・華南に割拠した小国のうち、主だったものは10あった。この分裂期は「五代十国」時代、あるいは単に「五代」と呼ばれる。

五代は、後梁、後唐、、、後周の5王朝を指す。十国は、前蜀、後蜀、呉、、荊南、、閩、楚、南漢、北漢の10カ国を指す。

907年、唐の節度使であった朱全忠は、唐の最後の皇帝に禪譲させ、みずから帝位に就き、後梁を建てた。朱全忠を皇帝として認めない各地の勢力は、それぞれ勝手に皇帝を名乗って自立し、五代十国時代が始まった。

五代の王朝はいずれも短命で、数年から10数年で滅亡した。後梁は後唐に滅ぼされた。後唐、、は、トルコ系の王朝だった。は建国に際して、モンゴル系の契丹(遼)から援助を得た。その見返りに、は十六州の地を契丹に割譲した。後周の第2代皇帝の世宗は五代随一の名君と言われ、中国統一に向けてさまざまな政策を行い、領土を拡張したが、在位わずか6年で若くして病死した。960年、世宗の側近だった武将の趙匡胤は、擁立されて皇帝(太祖)となり、宋(北宋)を建てた。宋の第2代皇帝は979年、北漢を滅ぼし、中国を統一した。しかし十六州の奪回は果たせなかった。

十国のうち、首都を金陵(南京)に置いたは最大の勢力を誇り、一時江南の大部分を支配して経済や文化が栄えた。の最後の皇帝となった李煜は詩人としても有名で、「詞」の名作を書き残した。は杭州を中心とした領域を支配し、平安時代の日本に使節を送った。

五代十国は、中国史の重要な転換期であった。旧来の門閥貴族は没落し、「形勢戸」と呼ばれる新興の地主層が台頭した。また中国の周辺の民族が力をつけた。それまでの中国史では、中国を支配した異民族の王朝は最終的に漢民族に同

化するのが常であったが、契丹(遼)は、中国の一部を支配しながらも、自民族のアイデンティティーを失わず、中国史上初の「征服王朝」となった。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われるものを下記の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

〔語 群〕

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| A 蜀 漢 | B 東 晋 | C 前 周 | D 吳 越 | E 趙 |
| F 西 晋 | G 後 漢 | H 前 漢 | I 東 漢 | J 西 漢 |
| K 東 周 | L 西 周 | M 南 唐 | N 蘇 湖 | O 江 浙 |
| P 後 晋 | Q 漢 魏 | R 北 齐 | S 北 魏 | T 北 周 |
| U 東 魏 | V 燕 雲 | W 陳 | X 西 魏 | |

問 2 文中の下線部㉑～㉒に関して、下記の間(ア)～(イ)に答えなさい。解答は各問の語群の中からもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

(ア) 下線部㉑に関して、朱全忠は当初、唐に対する反乱に参加し、後に唐に帰順して「全忠」の名を唐から与えられた。朱全忠が参加した反乱の名称は何か。

〔語 群〕

- | | | |
|--------|--------|--------|
| A 黄巢の乱 | B 安史の乱 | C 紅巾の乱 |
| D 黄巾の乱 | E 赤眉の乱 | |

(イ) 下線部㉒に関して、916年に契丹(遼)を建国し初代皇帝となったのは誰か。

〔語 群〕

- | | | |
|---------|--------|--------|
| A 耶律阿保機 | B 耶律大石 | C 耶律楚材 |
| D 耶律堯骨 | E 耶律休哥 | |

- (ウ) 下線部㉔に関して、趙匡胤(太祖)が文治主義を採用した結果、儒学の教養を身につけた知識層(士大夫)が、貴族にかわって官界に進出し、新しい儒学(宋学)が発展した。宋代の儒学者で、『太極図説』、『通書』を著したのは、誰か。

[語 群]

- A 程 顥 B 周敦頤 C 朱 熹
D 王陽明 E 欧陽脩

- (エ) 下線部㉕に関して、この皇帝の廟号は次のどれか。

[語 群]

- A 世 祖 B 高 宗 C 太 宗
D 成 祖 E 英 宗

- (オ) 下線部㉖に関して、もっとも適切な記述はどれか。

[語 群]

- A 唐末以降、形勢戸の荘園で働く小作人は佃戸、朝廷が直轄支配した農民は官戸と呼ばれるようになった。
- B 唐の滅亡により両税法も廃止され、五代から宋にかけて、形勢戸が佃戸を支配する荘園制に移行した。
- C 唐末から各地の藩鎮による屯田制が広まり、屯田農民の富裕層が形勢戸に、貧困層が佃戸となった。
- D 唐の滅亡後、均田制は名実ともに廃止され、それまで平等だった農民は、形勢戸と佃戸に分裂した。
- E 唐末から台頭しはじめた形勢戸は、没落した均田農民を佃戸として荘園で耕作させ、小作料をとった。

〔IV〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

18世紀、イギリスは、貿易独占会社であり、独自の軍隊をも持つ東インド会社によってインド経営を進めた。ムガル帝国の弱体化にともなうインド内部の分裂や地方王侯たちの反目も、イギリス東インド会社の進出に絶好の機会を与えることとなった。①が率いた東インド会社軍は、南インドでは1744年からの3度にわたる戦争において②を破り、北インドでは1757年カルカッタ北方の戦いにおいて②・ベンガル太守連合軍を破り、イギリスのインド支配を確固たるものとした。イギリス東インド会社は、1765年ムガル皇帝からベンガル・ビハール・オリッサ3州の③と呼ばれる租税徴収権を獲得し、単なる貿易商社ではなく、インドの土地と住民を直接支配する統治機関としての役割を果たすようになった。このような東インド会社の性格の変化に対応するため、イギリス本国は1773年に規制法を、1784年にインド法を制定し、東インド会社を本国政府の監督下に置くこととした。他方、イギリス本国では産業資本家による自由貿易を要求する声が高まり、1813年には東インド会社による茶を除くインドとの④が廃止され、1833年には、残されていた茶の取引と中国との④も廃止されたことにより、東インド会社の商業活動は完全に停止され純然たるインド統治機関となった。

イギリスのインド征服が進むとともに、インド人勢力による抵抗も各地で行われた。イギリスは、戦争によってこれらの抵抗勢力を破り領土を併合して直接支配するとともに、⑦他方で軍事保護条約を結んだ保守的な旧王侯の国⑧に対しては従属する代わりに内政権を与え、19世紀半ばにはインド全域の征服を完了した。

イギリスは、資源開発、道路・鉄道・灌漑施設の建設、通信網の整備などインドの開発を進める一方で、⑨新たな土地政策を導入し税収の増加を図った。また、産業革命の結果イギリスの安価な機械織り綿布が大量にインドに流入したため、インドの重要な輸出品であった手織り綿布の手工業が没落し、インドは⑩一次産品の輸出国およびイギリス製品の輸入国に転落した。

こうしたなかで、1857年東インド会社のインド人傭兵(シバーヒー)による反乱⑪が起き、この反乱はインドの北部、中部全体に波及し大反乱となった。これに

対してイギリスは、本国から軍隊を派遣し2年かけてこれを鎮圧した。反乱が沈静化すると、東インド会社によるインド統治が反省され、イギリス本国は1858年に東インド会社を解散し、インドをイギリス政府の直接支配下に置いた。さらに1877年には ⑤ が正式にインド皇帝となり、ここにインド帝国が成立した。

問1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われるものを下記の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

[語群]

- | | | |
|---------|------------|------------|
| A 領事裁判権 | B デュプレクス | C ポルトガル |
| D ボース | E エリザベス1世 | F 条約締結権 |
| G クライヴ | H 貿易独占権 | I ウェリントン |
| J ジズヤ | K スペイン | L ヴィクトリア女王 |
| M オランダ | N ヘンリ8世 | O ヘースティングズ |
| P フランス | Q ディズレーリ | R ディーワーニー |
| S 関税自主権 | T セシル＝ローズ | U デリー |
| V プラッシー | W グラッドストーン | |

問2 文中の下線部㉑～㉓に関して、下記の間㉑～㉓に答えなさい。解答は各間の語群の中からもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

㉑) 下線部㉑に関して、17世紀初頭に南インドに成立したヒンドゥー教の地方王権で、18世紀後半における4回の戦争でイギリスに敗れ、以後イギリスに従属したものは次のうちどれか。

[語群]

- | | | |
|-----------|--------------|--------|
| A マラーター王国 | B マイソール王国 | C シク王国 |
| D マタラム王国 | E ヴィジャヤナガル王国 | |

(イ) 下線部①に関して、インド帝国成立後も存続し、大小 550 を超え、インド面積の 45 % を占めるといわれる、これら旧王侯の国は何と呼ばれるか。

[語 群]

- A 藩王国 B 邑制国家 C 拓跋国家
D ミスル E 港市国家

(ウ) 下線部②に関して、主に北インドで実施された土地税徴収制度で、イギリスが政府と農民との間を仲介する者として旧来の地主・領主の伝統的権利を近代的土地所有権として認める代わりに、彼らを国家に対する地租納入の直接責任者とする制度を何というか。

[語 群]

- A マンサブダール制 B イクター制 C エンコミエンダ制
D ザミンダリー制 E ライヤットワリー制

(エ) 下線部③に関して、当時のインドの輸出品としてもっとも適切でないものは、次のうちどれか。

[語 群]

- A 綿 花 B アヘン C インディゴ
D ジュート E コーヒー

(オ) 下線部④に関して、この反乱がインド人の各階層を巻き込みインド北部・中部全域に波及する大反乱となった要因といえるイギリスの対インド政策の具体的内容として誤っているものは、次のうちどれか。

[語 群]

- A 失権の原理 B ムガル皇帝の廃位 C 土地制度
D イギリス式教育 E 東インド会社の商業活動停止